



# さわやか トカラ情報

〒892-0822  
鹿児島市泉町13番13号  
TEL099-227-9771

発行  
十島村教育委員会

## 【鯉のぼりと「母の日」のカーネーション;田知行様に感謝!】

十島村教育委員会教育長 木戸 浩

ゴールデンウィーク中には、「憲法記念日」や「みどりの日」、「こどもの日」という祝日がありました。その中の「こどもの日」は、子どもたちの健やかな成長を願い、鯉のぼりをあげるものでした。今は鹿児島市内でも見かけることが少なくなり、少子化を実感しているところです。

さて、鯉のぼりの歌は2つあります。1つ目が「屋根より高い こいのぼり 大きい真鯉はお父さん 小さい緋鯉は 子どもたち おもしろそうに 泳いでる」、もう1つが「いらかの波と 雲の波 重なる波の 中空を 橋(たちばな) 香る 朝風に 高く泳ぐや 鯉のぼり」です。皆さんもよくご存じの曲ですが、個人情報保護等もあり、名前を書いた旗竿を上げることはばかられる世の中になりつつあります。とても寂しい感じがするのは私だけでしょうか。中之島ではもう使わなくなった鯉のぼりを提供していただいて、宮川に多くの鯉のぼりを、ロープを張って泳がせているようです。「いらか」とは、つまり瓦の屋根です。それよりも高い所で、元気よく泳ぐ鯉のぼりのように、これからも子どもたちの元気な声が響き渡る十島村であってほしいと願っています。



## ◎ 44年間カーネーションを贈呈;田知行様に感謝

吉田町・桜島町、そして三島村と十島村がまだ「鹿児島郡」であった頃、吉田町で生花店を営んでいらっしゃった田知行様は、郡の子ども会連絡協議会の役員をされているときに、十島村と三島村に花屋がないことを知り、それから「母の日」に合わせて毎年自費でカーネーションを贈ってくださるようになったそうです。子どもたちからのお礼の手紙が励みとなり、1年も欠かさず44年間もの長きに渡りカーネーションを送り続けてくださいました。昨年は念願叶って、トカラマロン便で、7つの島を全て巡ることができたと感慨ひとしおでした。

今年で77歳の「喜寿」を迎えられ、ここで一息つきたいということで、今年度が最後のカーネーションの贈呈となりました。44年間の間には、親・子・孫と三代に渡ってカーネーションを受け取られた方々もいらっしゃるようです。

子どもたちからも感謝の手紙を書きますので、もし田知行様にお礼の気持ちを伝えたい方がいらっしゃいましたら、学校を通じて渡していただければ幸いです。

長年に渡って、十島村の子どもたちのためにカーネーションを届けていただいた田知行様には、ただただ「感謝」に堪えません。

本当にありがとうございます。



## 十島村で学ぶ

【僕の住んでいる悪石島】

悪石島学園9年 石川颯馬

僕の住んでいる悪石島について、最も良いと思うことを3つ紹介します。

1つ目は、「山」です。悪石島には、標高584メートルの御岳という高い山があります。御岳に登るには、徒歩ではとても厳しく、2時間から3時間で着きます。でも、御岳から見える景色は、他の島も見渡せる、とてもきれいな景色です。

2つ目は、「海」です。悪石島には数人の漁師さんがいらっしゃいます。様々な魚を釣ってきては、おすそ分けをくださいます。また、きれいな海なので泳ぐこともできます。ときどき海ガメも港に来るほど、生き物たちにとっても良い環境です。自然の豊かさをとても感じるができます。さらに港からは、たくさんの魚を釣ることもできます。学校では、釣り遠足という行事があり、魚釣りが好きな児童生徒や大人たちは、この行事をとっても楽しみにしています。他では経験できない、島ならではの体験ができてとても楽しいです。

最後は悪石島の「島民」です。島の方々は、大人も子供も優しく、みんなで仲良く楽しく暮らしています。いつも「おはようございます。」と挨拶をすると、明るく返してくれます。学校行事にも参加してくれます。また、地域行事のグラウンドゴルフやソフトボールの大会でも、楽しく交流することができます。島民の方々はいつも優しく声掛けをしてくださるので、とても大好きです。

僕の住んでいる悪石島には、まだまだたくさん良いところがあります。皆さんもぜひ、僕の住んでいる悪石島に遊びに来てください。



令和7年4月28日 南日本新聞「ひろば」

## 人と人をつなぐ島の魚釣り

小宝島学園9年 前田 志

9年生に進級し、小宝島生活は3年目に入った。初めて小宝島に来たとき、スーパーもコンビニもない、都会とは違う生活が不安だった。

しかし島民の方々は、うれしいことを一緒に喜び、困っていると助けてくれた。家族のように接してくれるおかげで楽しくなった。

自然との距離も近い。視界いっぱい広がる海、山々の緑、赤く咲き誇るハイビスカスが心を癒やしてくれる。特に赤立神から朝日が顔を出す光景はお気に入りだ。

そして島の魅力に欠かせないのが釣りだ。いつ何が釣れるかわからないドキドキ感が夢中にさせてくれる。

トビウオがやってくる時期には、トビウオを追いかけてくるロウニンアジを求めて、全国から釣り客がやってくる。言葉をかけあったり、タモ入れを手伝ったりと、島での魚釣りは人と人をつなぐ魅力も持っている。

私は小宝島で、出会いの大切さを学び、自然の素晴らしさを知った。ラスト1年間、島生活を満喫したい。

## オカヤドカリ(国の天然記念物)

ヤドカリの仲間ですが、幼生期以外は陸上で生活する点が他のヤドカリと違っていています。夜行性で、昼間は林や海岸近くの草むら、石の下に潜っていて、夜になると砂浜や水辺に出てきて餌をあさります。雑食性で、野菜類や魚介類を好んで食べます。十島村でも各地に生息している大切な生物です。

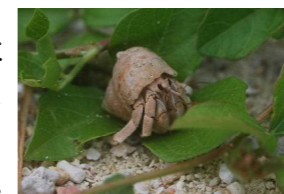


写真 鹿児島県

## ～ハンセン病問題を正しく理解する週間～

ハンセン病問題に対する正しい理解の促進と、ハンセン病であった方々等に対する偏見・差別の解消に努め、これらの方々の名誉の回復を図ることを目的に、集中的に啓発する機会として、6月22日からの1週間を「ハンセン病問題を正しく理解する週間」として定めています。

### ハンセン病とは

らい菌という細菌による感染力の弱い慢性の感染症です。昭和18年に治療薬が開発されてからは完全に治る病気となりました。

現在の日本においては、ハンセン病に感染する可能性は、ほとんどありません。

国の隔離政策などにより誤った考えが植え付けられ、そのことが様々な偏見・差別や人権侵害を起こしてきました。今なお残る根強い差別や偏見に苦しむ等の問題が残されています。

## 【宝島学園からのメッセージ】

宝島学園 教諭 有嶋 さつき

「行ってらっしゃい。」「行ってきます。」「お帰りなさい。」「ただいま。」宝島に赴任してきて、この言葉がこれまで以上に好きになり、この言葉のありがたみを感じています。上鹿するとき、港で「行ってらっしゃい。」と島民の方が声をかけてくださいます。宝島に帰ってくると「おかえりなさい。」といつも温かく迎え入れてくださり、ほっとすると同時に13時間の船旅の疲れも忘れてしまうほどです。単身赴任で宝島に来ている私は、鹿児島市に家があるはずなのに、いつの間にか宝島が自分の家のように感じています。そして、朝、出勤する際に会った時には「行ってらっしゃい。」と手を振って見送ってくださるので、私も「行ってきます。」と大きく手を振ります。今日も一日頑張るぞと元気をもらい、学校へ向かっています。そして、仕事帰りにお会いすると「お帰りなさい。」と声をかけてくださり、「ただいまです。」と返すと、つつい立ち話。仕事の疲れも吹っ飛ばすひと時です。

また、子ども達と深く関わることに幸せを感じています。学校だけでなく、スティールパン、金曜日のバレー、島の行事等を通して子ども達のよさを知ることができ、子ども達との共通の話題もでき会話が弾みます。昨年度は七島連合修学旅行の引率をさせていただきました。7泊8日寝食を共にすることで宝島の子ども達はもちろん、七島の子ども達の優しさや素直さを知ることができました。フェリーで一緒になると「有嶋先生!」と声をかけてくれるので、我が子のように、かわいいです。

このような心温かい素敵な十島村で生活をし、仕事をすることができる幸せを感じ、感謝の毎日です。宝島のために子ども達のために、自分ができていることを模索しながら、残りの宝島での生活を楽しく過ごしていきたいと思っています。